

ボストン大学と図書館

浅野 一弘 (法学部教授)

わたしの滞在するボストン大学(Boston University)は、メイン・キャンパスであるチャールズ・リバー・キャンパスとメディカル・キャンパスの2つからなる。チャールズ・リバー・キャンパスは、地下鉄の駅でいうと、実に8つの駅にもまたがる広さをほこっている。この両方のキャンパスをBoston University Shuttle(通称BUS)が結んでいる。

ボストン大学は、授業料がたかいことでも知られ、年間46,368ドルもの費用がかかる。この原稿を書いている時点での為替レートは、1ドル=92.7円であるので、およそ430万円ということになる。授業料が高額であるにもかかわらず、わたしの研究室は、きわめて古い建物のなかにあり、夏は暑く、冬は寒いという最高(?)の環境である。学生さんにいわせると、授業料はすべて、School of Managementの建物とFitness and Recreation Centerに回っているとの評判であった。たしかに、経営学研究科の建物は最新式で、ほかの建物にくらべ、ひとときわめだっている。また、体育館も最新式の機器が数多くとりそろえられているようだ(残念ながら、メタボ解消をめざす身でありながら、わたしは、この体育館に一度も入ったことがない)。

つぎに、ボストン大学の図書館について紹介しよう。理科系のメディカル・キャンパスにある図書館は利用したことがないため、ここでは、チャールズ・リバー・キャンパスにあるMugar Memorial Libraryについてのみに言及する。同図書館の開館時間は、月曜日～木曜日のあいだが午前8時～深夜12時まで、金・土曜日が、午前8時～夜の11時まで、そして、日曜日が午前10時～深夜12時までとなっている。日本の感覚からいくと、きわめてながい開館時間という印象を受ける。

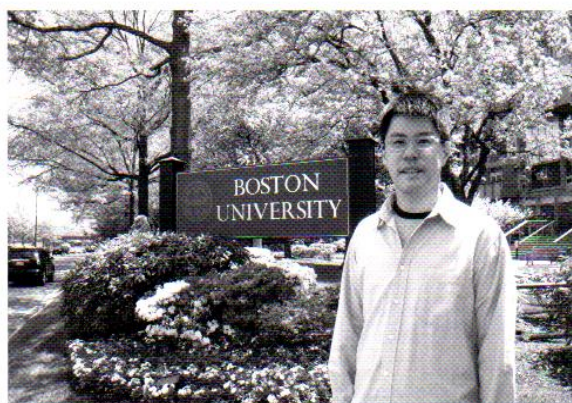
しかし、米国の場合、授業での課題がひんばんにだされるため、これだけの時間でもまだ不十分という声も聞かれる。現に、どの時間帯に図書館を訪れても、数多くの学生さんが、必死になって、レポートと格闘している姿を目にする。

このMugar Memorial Libraryは、地上6階・地下1階からなるが、めずらしいのは、その3階に、Martin Luther King Reading Roomとよばれる部屋があることだ。これは、公民権運動で名をはせたマーチン・ルーサー・キング牧師がボストン大学に籍をおいていたことから、もうけられた部屋である。そこでは、キング牧師の活躍の一端をかきまみることができる。

最後に、図書館を利用した際の個人的体験を語ってみたい。昨年の4月にボストン大学へきたわたしは、第37代米国大統領リチャード・M・ニクソンについての原稿を書くことになっていた。そこで、さっそく、図書館で、ニクソンに関する書籍を探したのだ。しかし、歴代の大統領に関する書籍がおいてある棚をみても、ニクソンに関する著作はほとんどなかった。それとは裏腹に、第35代大統領のジョン・F・ケネディに関する著書は、数えきれないほどならんでいたのだ。考えてみれば、ここは、マサチューセッツ州なのである。ケネディは、大統領になるまえは、同州選出の連邦議会上院議員であったのだ。それにくわえて、ニクソンが1972年の大統領選挙で再選をめざしたとき、全米で2カ所だけ、相手候補に敗北を喫した場所がある。その1つが、ここマサチューセッツ州なのである。ホワイトハウスのニクソンの執務室には、自分が選挙で負けたマサチューセッツ州とワシントンD.C.を削りとった全米の地図がはってあったという話をふと思いだした。



ボストン大学の図書館「Mugar Memorial Library」



キャンパスにて